

B-II型空腸パウチ法による膵頭十二指腸切除術後の胃内容排泄遅延予防効果の検討

当院で膵頭十二指腸切除術を施行した患者さんへ

1. 研究の対象

2017年1月から2025年12月に当院で膵頭十二指腸切除術を行った患者さん

2. 研究目的・方法

【目的】

胃内容排泄遅延 (delayed gastric emptying : DGE) は、主に膵臓や胆管、十二指腸の悪性腫瘍を切除するために行う膵頭十二指腸切除 (pancreaticoduodenectomy : PD) の後に高頻度で発生する合併症です。命に係わる合併症ではありませんが、経鼻胃管（鼻から胃の中に入れるチューブ）留置期間の延長や、経口摂取開始の遅延、在院日数の延長など、患者さんの術後回復を阻害する要因となります。当院では DGE 予防を目的として、2024年より B-II 法胃空腸吻合^{*}の際に空腸をパウチ状に形成する B-II 型空腸パウチ法を導入しております。本研究では、B-II 型空腸パウチ法の DGE 予防効果を検証いたします。

B-II 法胃空腸吻合^{*}: B-II 法胃空腸吻合は、胃と空腸を吻合して食べ物の通り道を作成する再建方法の一種です。現在、膵頭十二指腸切除の際の標準的な再建方法となっております。具体的には、空腸をループ状に吊り上げて胃の裏側や下側につなぐことで、胃の中に入ってきた食べ物や飲み物を空腸内に流すようにします。

【方法】

2017年1月から2025年12月に当院でPDを施行しB-II法で胃空腸吻合を行った患者さんのカルテから患者背景および術式関連因子を用いて、DGE 発生に関連するリスク因子を解析します。

3. 研究期間：実施許可日～2026年12月31日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、手術方法、術後合併症の発生状況、カルテ番号 等

5. 研究組織

新潟県立がんセンター新潟病院 消化器外科 三浦 宏平

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

新潟県立がんセンター新潟病院（消化器外科）

当院研究責任者：（三浦 宏平）

連絡先：新潟市中央区川岸町 2 丁目 15 番地 3

TEL : 025-266-5111